

第1章 「未来の信州」に向けて

長野県は、急激な人口減少や経済の成熟化が進み、量的拡大といった従来の延長線上だけでは新たな課題の解決ができない難しい時代を迎えています。

人々の価値観が変化し、物質的な豊かさに加えて精神的な満足感や暮らしのゆとりが求められています。また、東日本大震災の発生は、家族や社会とのつながりを重視するとともにエネルギーをはじめとした生活のあり方を見つめ直す契機となっています。

このような時代には、大地から与えられた恵みや先人が築いてきた努力の賜^{たまもの}、際立つ地域の個性など、長野県の持つ数多くの優れた特徴が、さらに輝きを放つ可能性を増しています。

つまり、これらの『信州』の強みを県民一人ひとりが磨き上げることで、世界に通用する新たな価値を創造していくことができるのです。そして、常に時代の変化に柔軟に対応し、自己革新を続けてきた私たち長野県民だからこそ、このような困難な時代に果敢に挑戦していくことができるのです。

「未来の信州」に向けて、私たち長野県民は明日への希望を持ち、人と人、地域と地域のつながり合い、支え合いを大切にしながら、自然や伝統と最先端の技術を調和させて地域のあり様を最適にすることにより、質が高く、持続可能な社会を創造していきます。

第2章 基本目標

このような認識のもと、県民みんなで心を一つにして県づくりに取り組むため、次の基本目標を掲げます。

『確かな暮らしが営まれる美しい信州』

「確かな暮らし」とは：明日への希望を持って日々の生活を送ることができ、万一の場合には温かな支援を受けることができるという安心があることです。これは、持続可能な共生社会の中で実現されると考えます。

「持続可能」とは：経済・地域が繁栄し、自然や環境はもとより社会保障制度などの社会システム、伝統・文化や農山村の暮らしなど、私たちが大切にすべきものが持続している姿

「共生社会」とは：どんな人にも雇用、社会参加の場があり、人々が支え合いながら、豊かな自然環境とともに暮らしている社会

「美しい」とは：

先人によって守り育てられてきた豊かな自然や農山村の原風景・町並みの美しさ

地域に息づく郷土への誇りや絆を大切にする心の美しさ

子どもから大人まで未来に向かってひた向きに努力している姿の美しさ

第3章 私たちがめざす「未来の信州」の姿

基本目標で掲げた『確かな暮らしが営まれる美しい信州』に向かって県民みんなで県づくりに取り組むためには、将来どのような長野県となってほしいのかを明らかにした上で、その姿に向かって県づくりを進めていく必要があります。

このため、今生まれた子どもたちが大人になる概ね 20 年後に私たちが次の世代に引き継ぎたい長野県の姿を 5 つの将来像でわかりやすく描き、県民みんなでめざしていきます。

私たちがめざす「未来の信州」の姿



1 世界に貢献する信州

長野県の産業は、果敢に挑戦する企業家精神とそれを支える地域の力によって、独自の技術を生み出し、絶えず競争力を高めてきました。一方で、今後国内経済は大きな成長が見込めず、グローバル化の進展により国際間の競争も激化すると予想される中で、これからも地域の活力を維持していくためには、積極的に域外需要を取り込んでいくことが望まれます。

そのためには、これまで培ってきた独自の技術をもとに進取の気性を発揮して新たな成長分野へ切り込んでいくとともに、付加価値の高い産業の構築に向け果敢に挑戦していくことが求められます。

また、国内経済が停滞する中で、経済的に余裕を持ったアジアの市民層などを中心に海外から多くの人々を本県の魅力でいざない、交流を図っていくことが重要となっています。

さらに、ゆとりある本県の生活環境が多様な人材をひきつけ、集った人々がともに本県産業を支える担い手となっていくことが求められます。

このため、地域の資源や人々の知恵、さらに充実した交通・情報通信ネットワークを活かして新たな価値を生み出し、世界に、そして他地域に貢献している、次のような「信州」をめざします。

(1) 世界をリードする最先端産業

世界中の市場を舞台に様々な優位性のある技術を活かすことにより、信州の産業が新たな成長分野などで世界をリードし、県民の日々の確かな暮らしを支えています。

多くの企業では、国内の大都市圏のみならず、インドや中国といったアジア新興国などの旺盛な需要を積極的に取り込むことで、世界中を相手に活力ある経済活動を行っています。

特に製造業においては、超精密・超微細な加工技術などの特長を活かすことにより、健康・医療、環境・エネルギー、次世代交通*などの新たな成長分野が次々と育ち、世界中に貢献しています。

健康・医療分野では、高齢者の増加に伴う医療・介護ニーズや健康志向の高まりに応え、信州で開発された高性能な医療・介護機器が健康長寿県のイメージと相まって世界中の医療・介護の現場で活躍しています。さらに、発酵食品などの製造技術を活かした信州の健康食品が受け入れられ、国内外で多くの人々に愛用されています。

環境・エネルギー分野では、世界的なエネルギー需要の増大による化石燃料の価格上昇や地球温暖化対策へのニーズの高まりにより、エネルギー使用量の少ない製品や部品の開発が盛んに行われており、これまでに培われてきた小型化技術などが優位性を発揮しています。同時に、製造過程の省エネルギー化・低炭素化も進んでおり、その技術がアジア新興国などで積極的に取り入れられ、環境負荷の低減に寄与しています。

また、環境性能に対するニーズの高まりが著しい次世代交通分野では、独自の技術によって軽量化、電子化された部品が、世界的な人口増加によって需要の増加した電気自動車や航空機などに使用されています。

個々の企業では、さらに独自の技術を磨き上げ、合わせて研究開発力や提案力を高め

ており、地域が連携した展示商談会などにより営業効果を高めています。加えて、こうした競争力のある企業が集積することにより、新たな創業も活発化しています。

また、これらの国内外から獲得した利益が地域内で循環することにより、域内の消費・投資が拡大し、商業・サービス業や建設産業といった地域に根ざした産業も活性化しています。

【用語解説】

次世代交通：成長が期待される電気自動車等の環境対応型自動車、次世代の航空機や電車、交通システム等に関連する産業分野

(2) 世界品質の農林産物

世界的な人口の増加などに伴う需要の高まりを背景に、世界中から高く評価される農林産物が生産され、競争力の高い農林業が農山村の暮らしを支えています。

農業では、農地の集約化や技術開発による低コスト化が進み、高い技術力と経営力を持った意欲ある担い手を中心となって、多様な気候や立地条件を活かしたバラエティに富んだ農畜産物が生産されています。合わせて、信州オリジナルの品種・品目の開発・普及が進むとともに安全・安心で品質の高い農畜産物のブランドイメージが国内外に認知され、収益性の高い農業が展開されることにより、若者の就農も増えています。こうして消費者の信頼を得た信州の農畜産物は国内はもちろんのこと、世界的な食料需要の増加から海外へも販路を拡大しています。

林業は、手入れの行き届いた広大な森林から木材を効率的、安定的に供給・利用していく素材生産や木材加工流通の体制が整い、品質と価格で競争力を持った、地域を支える産業として発展しています。そして、カラマツやヒノキ、スギなど様々な木材から加工された県産材は、住宅建築など用途に応じて様々な形で使われているほか、世界的な木材需要の高まりに応じて、国外にも供給されています。

(3) 世界をひきつける信州の魅力

豊かな自然や美しい景観、時代を超えた文化遺産などに囲まれている信州のすばらしさが世界中に知れわたり、国内外から多くの人々が訪れています。

雄大な山並みを背景に広がる美しい農村景観、滞在する楽しさにあふれた温泉や山岳・高原・スノーリゾート、地域性に富んだ郷土食、そして何よりも県民一人ひとりの地域に対する誇りが生み出すおもてなしの心など、信州の魅力がブランドイメージとして国内外に広く知られています。

特に海外においては、「NAGANO」の知名度が向上し、世界中から多くの人々が繰り返し訪れています。また、海外からの教育旅行も活発になっており、多くの児童生徒との交流が深まっています。

こうした人々の自由な行き来には、東京・名古屋間で開業しているリニア中央新幹線、敦賀まで開業し大阪までつながっている北陸新幹線、空の玄関口として東アジアなどの海外や国内を結んでいる信州まつもと空港、さらには、県内に張り巡らされた高速道路網など、充実された高速交通ネットワークが利用されています。

(4) 知の拠点

ゆとりある魅力的な暮らしができる信州に多様な人材が国内外から集い、育成され、信州が世界レベルの「知の拠点」となっています。

産業活動の中で知識がより重視される社会を迎え、首都圏や中京圏に比較的近く、豊かな自然に囲まれたゆとりある生活環境を求めて、国内外の研究開発型企業が進出しています。同時に、産学官が連携することで企業の研究開発部門が充実し、高度な専門的知識や技術を持った研究者・技術者が新たな課題やニーズに応えるべく活躍しています。

これらによる人材の集積は、若者を中心にU・Iターン*を誘発させるとともに、海外など他地域との交流を深め、積極的に互いの知識や技術を得ることで産業のイノベーションを生み、各地域の経済活動を一層活発化させています。

同時に、産学官連携の一翼を担う大学などの高等教育・研究機関が充実しており、高度な専門的知識や技能、グローバルな視点、優れた応用力を持った人材が育つとともに、シンクタンクとしての役割を果たすことなどによって地域に貢献しています。

【用語解説】

U・Iターン：「Uターン」は、県出身者が戻って就職・定住すること。「Iターン」は県出身者に限らず県外に在住している人が、長野県を愛し「I」の字のようにまっすぐ長野県に就職・定住してほしいと、長野県が名付けた人材確保のキャッチフレーズ

2 「豊かな」ライフスタイルを実現する信州

長野県が誇る美しい自然や景観、伝統・文化は、県民の快適でゆとりある暮らしを育み、精神的な充足をもたらしています。他方で、個人の価値観やライフスタイルの多様化が進む中で発生した東日本大震災は、改めて画一性や効率性のみならず、ゆとりや心の豊かさを実感できる暮らしの大切さを認識させました。このため、自然や伝統に裏打ちされた本物の暮らしが味わえる地域として、本県の魅力をこれまで以上に高めていくことが望まれます。

そのためには、多様な自然環境を守り育て、美しい景観を創っていくとともに、地域固有の伝統・文化を受け継ぐことなどにより、地域の個性的な魅力を向上させていくことが必要です。加えて、ゆとりある時間を充実させてくれる、文化芸術やスポーツに親しむ環境などを整えていくことが求められます。

さらには、恵まれた自然環境を活かして、自然エネルギーを生活の中で使っていくことなどにより、環境への負荷を減らしていくことも求められます。

また、進歩の目覚ましい情報通信技術の活用、公共交通や生活道路などの交通基盤の維持、地域の防災力の向上などによって、快適で安全な暮らしを支えていくことが必要です。

このため、自然や伝統と最先端の技術が調和した、持続可能でゆとりある暮らしが県民の喜びと誇りになっている、次のような「信州」をめざします。

(1) 心潤う信州の暮らし

豊かな自然や美しい景観、伝統・文化などを活かした個性的な地域の魅力が創造され、それを求めて多くの人々が訪れ楽しんでいきます。

清らかな水と空気を育む豊かな森林をはじめとする多様な自然環境がしっかりと守られているとともに、四季折々の美しい景観が県民の高い意識と積極的な参加により近代的な造形とも調和しながら形成され、人々の暮らしに潤いと安らぎを与えています。加えて、各地域の風土が培った祭りなどの伝統文化が脈々と受け継がれ、子どもから大人まで幅広い世代が積極的に参加することでコミュニティ活動が活発化し、地域への愛着が一層深まっています。このことは、自らが暮らす地域への誇りと自信を芽生えさせ、元気で自立的な地域づくりの原動力となっています。

また、農山村を中心に、地元で採れた旬の農林産物やジビエ*を使った料理を楽しむレストランをはじめ、加工品の販売、農業や木工を体験できる機会の提供など、地域の資源を活用した取組が各地で行われており、個性的な魅力にあふれる地域が創造されています。

これらの農村文明とも言うべき自然や伝統を活かした地域づくりは、大都市圏を中心とした人々との交流を活発化させています。そして、信州がゆとりを求める若者から熟年層まで多くの人々の心のふるさととなることで、移住してくる人や都市部との二地域で暮らす人も増えています。

【用語解説】

ジビエ：捕獲した野生鳥獣の肉をジビエ（jibier:仏語）という。ジビエ料理は、フランス料理の中でも最も古典的で高級な料理に位置付けられている。

(2) 人生を彩る感動との出会い

文化芸術やスポーツなど人生に彩りを与える環境が整い、充実したゆとりある時間が県民の心を癒して更なる自己実現に向けたエネルギーとなり、誰もが心豊かな人生を送っています。

信州に数多くある文化施設が質的にも充実し、子どもから大人まで多くの人々が心動かす文化芸術に親しんでいるとともに、個々の芸術性をその人なりに精一杯表現することで、一人ひとりが感性を磨いています。

さらに、個々の関心や適性に応じてスポーツを楽しむ環境が整備されており、多くの県民が心身ともに充実した暮らしを送り、競技に打ち込むアスリートの姿が県民の心に一体感を与えています。

また、都市部を中心に、若者をはじめとする様々な人々をひきつける多様な商品やサービスが提供されており、ユニバーサルデザインに配慮した歩いて暮らせるまちづくりと相まって、快適で賑わいのある街を多くの人々が楽しんでいます。

(3) 自然からのお裾分け

自然を思いやり大切にすることを県民の意識が自然からお裾分けをいただくという気持ちにつながり、省エネルギーの徹底など環境への負荷の少ない暮らしが各地域で広まると

ともに、自然エネルギーの地産地消が実現しています。

一人ひとりの地球環境に対する意識が高く、多くの県民が日々の暮らしの中で自転車や公共交通の利用、緑のカーテンの活用などに積極的に取り組んでいるほか、省エネルギー性能の高い家電製品や電気自動車といった次世代自動車*、断熱性能が高いエコ住宅を選択するなど、エネルギー使用の少ない暮らしが広がっています。加えて、地域内の消費エネルギーの最適化を図るスマートコミュニティ*の広がりなどにより、温室効果ガス*の排出量が大きく減少しています。

他方、豊富に存在する太陽光や木質バイオマス、小水力などを活用した発電や熱利用が、地域の金融機関や住民出資などの資金を利用して各地域で行われており、さらには消費するエネルギーに相当するエネルギーを生み出すことのできる地域も生まれ、国内外のモデルとなっています。

また、簡易包装の普及や容器の再利用のほか、物を大切に使い、不用になってもきちんと分別する再資源化が徹底されており、多くの人々が環境への負荷の少ない生活を送っています。

【用語解説】

次世代自動車：ハイブリッド自動車、電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車、クリーンディーゼル車のこと。

スマートコミュニティ：情報通信技術を活用した自然エネルギーなどによる電力需給の最適化や、熱エネルギーの有効利用、新交通システムの導入などによって、人と環境にやさしい社会システムが実現した地域のこと。

温室効果ガス：二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素など、大気中において地表から放射された赤外線の一部を吸収することにより温室効果をもたらす気体の総称のこと。

(4) どこでも営まれる快適な暮らし

情報通信技術の活用、公共交通や道路などの交通基盤の維持・整備、治安や防災力の確保などにより、信州ではどこでも快適で安全な暮らしが確保されています。

いつでも、どこでも、子どもから高齢者まで誰もが簡単に利用できる、より一層高速な情報通信ネットワークとそれを活用した各種サービスが普及しており、人口減少や高齢化が進んだ中であっても、健康や仕事など様々な場面で人々の快適な暮らしを支えています。

また、急峻な地形や脆弱な地質が分布する各地域では、いつか発生するであろう地震、土砂崩れ、洪水などに対する防災・減災基盤の整備が進むとともに、災害に関する情報がきめ細かく提供されており、いざという時には住民同士が支え合いながら迅速に避難ができ、被災しても早期に立ち直ることができる防災力の高い地域となっています。加えて、地域住民と協働した犯罪の未然防止活動などによって犯罪の起きにくい社会となっており、日々の安全な生活が確保されています。

地域間の移動には、デマンド交通など地域の状況に応じた誰にでも利用しやすい移動手段が確保されるとともに、子どもや高齢者なども安全に通行できる生活道路の整備や衝突回避など安全性能を高めた自動車の普及などにより、どこでも快適な暮らしが営めるようになっていきます。

3 誰にでも居場所と出番がある信州

人と人との絆や支え合いを大切にする精神が息づく長野県だからこそ、お互いの個性を尊重し、県民一人ひとりが社会の中で自分らしく活躍できることが望まれます。

そのためには、県民一人ひとりが持つ能力を最大限に活かすことのできる雇用環境や社会参加の仕組みを整備するとともに、誰もが再チャレンジできる社会にしていくことが求められます。

女性については、出産・育児期に相当する年齢層の労働力率の落ち込みが改善できるよう、より一層能力を発揮できる環境が求められています。

また、少子高齢化が進む中であっても、地域全体の支え合いによって出産、子育てへの不安を解消するとともに、県民が必要な福祉サービスを受けることのできる体制を整備することが必要です。

このため、県民一人ひとりが協働して支え合い、誰もが等しく社会からその存在が認められ、自らの可能性に挑戦し、自分らしく生きている、次のような「信州」をめざします。

(1) 一人ひとりの自己実現

若者から高齢者まで、そして女性も男性も、障害のある人もない人も、全ての県民がそれぞれの能力を発揮し、職場や地域で活躍しています。

職場においては、フレックスタイムや情報通信技術を活用した在宅ワークなど個々の生活スタイルに合った多様な働き方が選択できており、県民一人ひとりがその持てる能力を最大限に発揮し、特に、女性の活躍が地域経済・社会を活性化させる大きな役割を担っています。

加えて、就職した後も、最先端の技術・知識や先人が築いたものづくりの技と心の習得、世代や業種を越えた様々な人との関わり合いの中での創造力の向上など、多くの人が職業能力の開発に努めています。

また、新規学卒者にはきめ細かな就職支援が行われるとともに、意図せず失業してしまった人には新たな自分の目的に向けて再チャレンジできる仕組みや就職するまでの生活への保障などのセーフティネットが確保されることにより、誰もが自分の能力を仕事に活かすことができる機会を平等に持てる公正な社会となっています。また、ひきこもりなど困難を抱える若者に対しては、自立に向けたきめ細かな支援が行われています。

地域社会では、自治会による住民の主体的なコミュニティの活動、公民館を中心とした地域の課題や個々の関心・目的に応じた学び合い、ボランティア活動、地域の課題を解決するためのコミュニティビジネス*など、様々な形で地域づくりに関わることができ、そこに携わる人がそれぞれの満足感を得ています。

【用語解説】

コミュニティビジネス：高齢世帯への配食サービスや間伐材を薪に加工して販売する取組など、様々な地域の課題（高齢化や環境問題など）を市場としてとらえ、その解決を目的にビジネスの手法を用いて行う地域住民の主体的な取組のこと。

(2) 子育て応援先進県

地域の絆が強い信州では、少子化・核家族化が進む中であっても、多様な主体による様々な子育てサービスの提供や地域の支え合いなどにより、安心して子どもを産み育てられる環境が整備されており、県民が子どもを産み育てることに心から喜びを感じる社会となっています。また、みんなに見守られ、子どもたちは伸び伸びと育っています。

出産・子育て期には、夫婦ともに一時的な休業や短時間勤務によって、子育ての時間を十分に確保しながら親子の絆を深めているとともに、仕事を続けることで安定した収入を得ることができるようになっています。

また、安心して出産できる医療が確保されるとともに、低年齢児や休日、病児・病後児の保育など多様なニーズに合った保育サービスや、24時間対応可能な小児救急などの医療サービスがどこでも提供されています。

合わせて、祖父母を含めた家族だけでなく、近所の友人やお年寄りに面倒を見てもらうなど、地域の人々と関わりを持ち、支えられながら子育てができるようになっています。

(3) 認め合い支え合う社会

全ての県民の尊厳が守られ、必要とする福祉サービスの提供を受けられるなど、誰もが周りから自分の存在が認められ、困った時には温かい手を差し伸べてもらえる社会となっています。

地域社会では、住民同士が声を掛け合いながら互いを気遣い、一人暮らしのお年寄りも安心して暮らしています。加えて、インターネットなど情報通信技術を活用したコミュニケーションも活発になっており、人々は多様なつながりの中で安心感を抱いています。

また、適切な介護予防により重度の要介護者は減少していますが、高齢者が高齢者を介護する、いわゆる老老介護が増える中であっても、介護などの福祉と医療が連携した様々な生活支援サービスの一体的な提供を受けられることで、高齢者が可能な限り住み慣れた場所で自分らしく暮らしています。

障害者は、どこでも必要な福祉サービスを受けることができおり、障害の種別、軽重に関わらず、自ら選んだ場所で、自分らしく安心して暮らしています。

4 健康長寿世界一の信州

長野県が誇る全国トップレベルの健康長寿は、県民がこれまで長年にわたり健康づくりに正面から取り組むことにより築き上げてきた世界に誇る財産です。また、今後人口が減少していく中、より一層県民一人ひとりが元気に暮らしていくことの重要性が増しています。

そのためには、誰もが日頃から心身の健康づくりに積極的に取り組むとともに、健康を損なった場合でも必要な医療を受けられる環境を整えておくことが必要です。また、高齢者が生きがいを持ち、第二の人生においても元気に活躍している地域社会を構築していくことが求められます。

このため、世界に誇れる健康長寿先進県を将来にわたって継承し、発展させ、全ての県民が健康でいきいきと活躍し長い人生を送っている、次のような「信州」をめざします。

(1) 生涯にわたる健康づくり

子どもから高齢者まで生涯にわたり健康で元気に暮らせるよう、日頃から一人ひとりが健康づくりに取り組んでいます。その結果、自分の健康は自分でつくるという意識が浸透し、栄養のバランスがとれた食事や個々にあった運動といった生活習慣が身についています。

食育により子どものころから食に関する意識がさらに高まった結果、野菜を多く摂り、塩分や油分を控えたバランスのよい食生活を送ることで、多くの県民が食を通じた健康づくりに取り組んでいます。

また、体を動かす機会が少なくなりがちだった働き盛りの世代などでも日常的な運動に取り組んでおり、特に、美しい里山や田園風景に囲まれる中で、四季を感じながらウォーキングやジョギングなどに親しみ、さわやかな汗を流しています。加えて、全身で自然を感じることができる森林浴は、全国一のセラピー基地などの整備とも相まって、多くの県民の心身をリフレッシュさせています。

(2) 生きがいが生み出す元気な暮らし

若者から高齢者まで、一人ひとりが職場や地域社会で生きがいを感じながら役割を果たすとともに、ワークライフバランスが実現することで、心身の健康を保ちながら暮らしています。

県民は、仕事と家庭生活が両立しており、家族や友人との語りや趣味などの自由時間を楽しみながら心身をリフレッシュしています。加えて、ボランティアなどの社会貢献活動に参加することで、地域とのつながりを大切にしながら生活しています。

特に、多くの高齢者は、定年延長や再雇用のほか、これまでの企業などでの経験を活かした新たな起業やNPOの設立により、意欲のある限り地域経済を支える担い手として活躍しています。さらに農山村においては、農作業や山仕事に携わる高齢者も増えており、自然の中で汗を流しています。加えて、長い間に培ってきた豊富な知識や経験を地域づくりに活かすなど、元気な高齢者が地域社会で中心的役割を担っており、生きがいと誇りを持って暮らしています。

(3) 健康長寿を支える保健・医療

地域に根ざした保健活動が県民の健康づくりの基礎となっており、合わせて発達した医療技術と、周産期*医療、救急医療など医療機関の連携による医療体制の充実が、県

民の健康でいきいきとした暮らしを支えています。

主要な死亡原因であるがんや脳卒中などの生活習慣病の予防を主眼とした保健活動や、多くの県民が自主的に健康診断を受診することにより、一人ひとりが健康管理に取り組んでいます。特に、心臓病や脳卒中などを引き起こす危険性をはらむメタボリックシンドローム*該当者・予備群は、積極的な保健指導によって生活習慣の改善に取り組んでいます。

治療が必要な病気やけがをしたときには、近くの診療所などで様々な症状に対して適切な診断を受けることができ、その診断によっては高度で専門的な医療が受けられる連携体制が整備されています。また、最も多い死因であるがんに対しては、その早期診断や治療技術の発展と各地域のがん診療連携拠点病院の整備とが相まって信州のがん医療を進歩させたことにより、死亡率が低下しています。加えて、新型インフルエンザのような新たな感染症が発生した場合でも、迅速に対応できる必要な医療体制が構築されています。

【用語解説】

周産期：妊娠満22週から生後満7日未満の期間

メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)：内臓脂肪が蓄積し、高血圧、高血糖、血中の脂質異常などを複合的に発症する病態

5 一人ひとりの力を引き出す教育県信州

子どもたちは、将来の長野県を築き上げていく、かけがえのない財産です。今後、一層少子化やグローバル化が進むことが予想される中で、教育を通じた人材育成に力を注いできた歴史的風土を大切に、子どもたちが自立する力を身につけ、長野県そして日本に誇りを持ちながら世界を相手に活躍することが望まれます。

そのためには、子どもたちを学校や家庭、地域など、社会全体できめ細かく支えながら、一人ひとりが自立できる確かな学力を身につけ、健やかな心身を育むことができる教育環境を整備することが求められます。加えて、生涯を通じた学びの環境を整え、県民がその成果を地域社会に活かしていくことが求められます。

このため、子どもから大人まで全ての県民が主体的に学び、個々の持つ個性や能力を社会の中で発揮している、次のような「信州」をめざします。

(1) 人間力を養う

学校や家庭、地域の教育力が充実し、子どもたち一人ひとりが本来持っている力を伸ばして社会の中で活かすことができる確かな学力と人間性を身につけ、地域や世界に貢献できる人材として育てています。

学校では、少人数の学級編制や小・中・高等学校の連携、情報通信技術の活用などにより児童生徒の個性や能力に応じた指導が行われています。また、グループ討議などの参加型授業が取り入れられ、子どもたちは高い意欲をもって学び、基礎的・基本的な知識・

技能に加えて実社会で必要となる応用力も身につけています。合わせて、職場体験学習を含む体系的なキャリア教育などによって将来への目的意識や社会の一員としての意識を身につけています。

さらに、学校・家庭・地域が連携した身近な自然や伝統・文化を活かした体験型の学習が受け継がれており、子どもたちは郷土に愛着と誇りを持つとともに豊かな人間性を備え、将来に夢と希望を持って伸び伸びと成長しています。

(2) 楽しい学び舎

子どもたちにとって学校は、一日のうち多くの時間を過ごす大切な場所です。ともに過ごす友人や先生との絆が築かれ、満足感を持って安心な学校生活を送っています。

学校では、分かる授業、学ぶことの楽しさを味わえる授業が行われており、子どもたちは意欲をもって学んでいます。また、先生と子どもがしっかりと向き合うことで信頼関係が築かれるとともに、子どもの悩みに寄り添う相談体制が充実しており、健やかな成長をサポートすることで子どもたちの心の居場所が確保されています。

そうした中、いじめや不登校など悩みを抱えている児童生徒に対しては、学校や市町村、地域住民、若者のボランティアなどが協力して継続した支援が行われています。

加えて、地域社会では、登下校の際に子どもたちを見守り、声をかけるなど、全ての子どもの健全な育ちを支える環境が整備されています。

(3) 自然の中でたくましい育ち

子どもたちが幼少期から運動・スポーツの魅力を体感し、自ら進んで親しむ習慣を身につけることにより、子どもたちの基礎体力が向上しています。

子どもたちは、幼少期の自然の中での外遊びや、学校での体育、部活動、地域のスポーツクラブ活動などを通じて、たくましく健康に成長しています。特に、成長段階に応じた運動プログラムが実践されており、幼少期の運動遊びをきっかけに楽しみながら運動に親しむ習慣が身に付き、成長とともに体力・運動能力を向上させています。

また、家庭では家族と一緒に食事を取り、学校では地場産物や郷土食を活かした学校給食などを通じた食育によって、子どもたちが食に関する正しい知識や食習慣を身につけており、健康長寿の礎になっています。

(4) 個性輝く子どもたち

全ての子どもが信州の宝であり、かけがえのない存在です。このため、障害の有無などに関わらず支援を必要とする子どもたちへの教育体制が整備され、どの子どもも持てる力を発揮し、それぞれの個性を輝かせています。

幼稚園・保育所から小・中・高等学校まで、また、通常の学級から特別支援学校までの連続した教育体制が整備されており、子どもたちは身近な地域で障害の程度やニーズに合った必要な支援を受け、同年代の友だちと一緒に持てる力を伸ばしています。

合わせて、生徒の能力に応じ、地域と連携した自立への支援が行われており、卒業後も自らが暮らす地域の中で社会参加をしながら、自分らしくいきいきと生活しています。

(5) 常に学び自ら活かす

誰もが生涯を通じて学び続けることで自らを高め、一人ひとりが人生を充実させています。また、学んだことを地域社会に活かすことで、地域全体に活気があふれています。

情報通信技術の発達などにより学習機会が充実しており、誰もが自己の目的に応じて自発的に学んでいます。社会に出てからも生涯にわたって繰り返し学ぶことで、仕事に役立つ高度な知識や技術を習得したり、人生を豊かにする教養を身につけたりしています。

地域社会でも、公民館活動はもとよりNPOやサークル活動など様々な学びの機会が提供されており、誰もが身近な場で学び合える環境が整っています。そこでは、子どもから高齢者まで幅広い年代が、自然環境や歴史文化、福祉など自分たちの地域について学習しており、このようなつながりの中で自らが積極的に地域づくりを担うという意識が定着しています。

第4章 「未来の信州」の姿を支える仕組み

「私たちがめざす『未来の信州』の姿」を実現するためには、姿を支える仕組みが必要です。このため、次の仕組みを県民みんなで整えていきます。

(1) 分厚い層が支える共創・協働の社会

人々の価値観が変化し、県民の多様化・複雑化するニーズに行政サービスだけで応えていくことが難しくなっています。今後どのようにして質の高いサービスを提供し、また、地域の課題の解決を図って行くのが課題となっています。

長野県では、従来から地域に根ざしている地縁組織や長野オリンピックを契機に活動が盛んになったボランティア、NPOなどが、自ら地域づくりなどの様々な活動を行っていることから、こうした様々な主体と行政がそれぞれの得意分野を活かしながら、今後一層連携、協働し、重層的に補完し合っていくことが求められています。

そこで、県民、NPO、民間企業など、地域社会を構成する多様な主体と県、市町村などが協働し、積極的に対話を重ねることにより、お互いが役割分担しながら公的なサービスを提供するなど、地域を共に創造していく仕組みが必要です。

(2) 信州独自の自治による自立度の高い地域

個性豊かで活力ある地域社会を実現するためには、住民に最も近い基礎自治体である市町村が、自らの判断と責任で自主的・自立的な行政運営を行うことにより、多様化する住民ニーズに応えながら地域課題を解決していくことが重要です。

しかし、高齢化による社会保障関係費の増加などにより、厳しい財政運営が続くことが見込まれています。

そこで、現在の小規模町村が数多く存在する長野県の特徴を踏まえながら、事務処理の共同化といった県と市町村又は市町村間で相互に連携・補完し合う仕組みなど長野県独自の自治のあり方を検討することが必要です。

(3) 交流・連携を深めるネットワーク型社会

地域の様々な課題の解決に当たっては、近隣県との交流・連携を深めるとともに、地方とは異なる状況に置かれている大都市と相互に補完し合うことで、効果的・効率的に課題を解決できる可能性があります。また、グローバル化の進展に伴って、双方に利益となる海外との継続的な経済交流も求められています。

そこで、広域的な対応が必要な災害対応や広域的な結びつきが効果的な観光振興などについて近隣県や大都市と連携するネットワークを構築するとともに、海外との人脈づくりなどを通じた経済交流の拡大を図ることが必要です。